

## 大学院特別レクチャーのお知らせ

立命館大学大学院文学研究科日本文学専修、および国際言語文化研究所明治大正文化研究会は、2014年度大学院特別レクチャーシリーズ第2回としてニューメキシコ大学のアンドレ・ハーグ氏を招いて、特別レクチャーを行います。

本年度は夏目漱石の『ころ』発刊から百年ということで、朝日新聞では1914年の発表時と同じ日程で連載を再掲載し、またミシガン大学では Soseki Diversity として記念の学会が催されました。内外に波及した漱石への関心は、また新たな漱石文学の読みの可能性を開いていくことになると思えます。そうした状況の中で、本講義では前回、参加者のオスロ大学の安部オースタッド玲子氏をお招きし講義をしていただきましたが、今回は、その第2回目としてやはり参加者のハーグ氏を招き企画いたしました。どうぞ多くの方たちのご参加を期待いたします。

**レクチャー: どうして、まあ、殺されたので  
しょうか? — 漱石と(反)植民地主義の暴力・  
'Why was he...well...killed?'  
Natsume Sōseki and (Anti-)Colonial Violence'  
講師: アンドレ・ハーグ (Andre Haag)  
(ニューメキシコ大学)**

**=特別授業日=**

**日時: 2014年7月1日 (火) 17:30~19:00**

**場所: 清心館503 (立命館大学衣笠キャンパス)**

「満韓」への旅直後に起きた、安重根による伊藤博文暗殺を機に、夏目漱石は帝国とネーションの関わりをどう見たかを「韓満所感」や『門』を中心に考察する。(授業は英語、質疑は日本語で行う。)

### 講演者紹介

アンドレ・ハーグ氏は、2013年にスタンフォード大学にて博士号を授与された。博士論文の題名は“Fear and Loathing in Imperial Japan: The Cultures of Korean Peril”。現在は、ニューメキシコ大学で勤務されている。

主たる業績に“Maruyama Masao and Katō Shūichi on Translation and Japanese Modernity.” I. Levy, ed., *Translation in Modern Japan* (Routledge, 2010)などがある。また、翻訳に、“(Translation) Ethnic Hierarchy and the Potential for ‘Subversion’: The Film Suicide Squad at the Watchtower and Colonial Korea” Mizuno Naoki, *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review* (Feb 2013)がある。